修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
東京都千代田区西神田
2丁目8－7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）6－36337

テン・ミリオン計画

海外修学旅行懇談会開く

教育的諸条件の環境づくりめざす

運輸省は昨年九月、海外旅行倍増計画（テン・ミリオン計画）を策定し、今後五年間に海外旅行者を六十一年の倍、一千万人に伸ばすことを打ち出し、この推進機関である㈶国際観光開発研究センター内に「海外旅行促進フォーラム」を十一月に発足させた。フォーラム内には二つの委員会と四つの懇談会が組織されているが、その一つである「海外修学旅行懇談会」の第一回会合が、二月二十六日東京都千代田区の海運ビルで開催された。会には、本協会をはじめ関係公益法人、旅行業者、航空会社、損保会社等フォーラム構成メンバー、更にオブザーバーとしての運輸省、文部省を含めて五十余名が出席し、海外修学旅行促進についての条件整備、問題点等を中心に協議が進められ、提起された数々の意見を集約し、問題点については解決をめざしつつ海外修学旅行に関する万全の環境づくりを、強力に推進していくことを申し合わせた。

あいさつする運輸省国際運輸・観光局観光部高野富夫旅行業課長

会は、十三時三十分、㈶国際観光開発研究センターフォーラム企画室長佐野宏氏の開会の辞で始まり、座長として東急観光株式会社取締役・海外旅行部長大八木秀二郎氏が紹介され、ついで、運輸省国際運輸・観光局観光部旅行業課長高野富夫氏が、テン・ミリオン計画は国内はもとより海外からも高く評価され、関係各国との計画推進を求めてミッションの交流も盛んで、国際理解、友好親善に果たす役割は重要で、関係各位の理解と協力を望むとあいさつし、議事に入った。

先ず運輸省国際運輸・観光局観光部旅行業課補佐官前田隆平氏が「海外旅行倍増計画と海外旅行促進フォーラムについて」と題し、昨年発足以来のこの計画の進捗状況につき、資料にもとづき説明し、更に当面のフォーラムの活動については、フォーラム内の二つの委員会、四つの懇談会が次々と機能を発揮し、事業活動を推進している状況を紹介した。

ついで、関係公益法人、旅行会社、航空会社、学校代表などから、「海外修学旅行の現状と問題点」をテーマとしての報告が行われた。

全修協糸賀英一修学旅行部長からは、「国際化の時代に向けて、修学旅行も海外を指向することになる趨勢は認めつつも、安全性を最優先すべき基本的な考えにたって、なお慎重を期していきたい」との全修協の考え方（別項）について発表したほか、「教育現場から見た海外修学旅行」「海外修学旅行に関する運賃・輸送力の実態と問題点」「海外修学旅行の企画上の問題点」などについて、代表発表の形で報告や提言が行われた。

これ等の発言内容を集約すると次のように大別できる。

①事前学習、指導のあり方
②パスポート、ビザの取得に関するもの
③航空機利用と地方の国際空港整備等それに伴う諸問題
④現地での宿舎、交流相手校に関するもの
⑤現地での治安、安全の問題
⑥病気、災害時の補償の問題
⑦旅行費用

つぎにその他の出席者全員から補足的な意見の発表があり、最後に、オブザーバーとして参加した文部省初等中等教育局中学校課課長補佐辰野裕一氏は、修学旅行に限らず教育活動は現場の創意工夫に待つものが大きい。修学旅行に関しても、種々の規制を最少限に止め、選択の幅を拡大する方向が望ましく、その際の環境づくりの一つとして、この度の試みは評価できるとの感想を述べた。

前出佐野企画室長の閉会の辞をもって、十六時すぎ終了した。

今回の懇談会は、積極論が大勢を占めたが、各府県教委の基準見直しも、現在のところ、山口、福岡、長崎、熊本の四県に止っており、公立学校で海外修学旅行が定着していくにはなお相当の時日を要するであろう。

修学旅行は、学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行う学校教育上極めて重要な行事である。

従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。

（財団法人　全国修学旅行研究協会の趣意書から）

海外修学旅行は安全を最優先に

全修協の考え方

上記懇談会の、「関係公益法人の事業内容と今後の取り組み」の中で、全修協としての海外修学旅行に対する現時点での考え方を次のように述べた。

時代の流れや、国際理解を重視する最近の教育の動向からも、修学旅行の海外指向に対し異論はない。

ただし、紫雲丸事故等を契機とした当協会設立の趣旨からも、修学旅行には安全を最優先と考えるものとして、航空機利用については最大の関心を寄せている。百％の安全性の確立をめざし、航空会社をはじめ、交通機関、宿泊施設等関係各位の一層の努力を切望する。

当方としては、三十年の歴史をもつ教職員研修旅行の海外版の充実を期して、海外修学旅行のノウハウを与える好機としたい。

また、研究会、講演会、セミナー等を開催して、海外修学旅行に対する関心を高め、予備知識の提供に努力したい。

64年度計画を決定

関東・中国方面が増、信州・九州は減

――近修委員会――

（関西支局）近畿中学校修学旅行委員会は、二月二十三日、申込校の六十四年度輸送計画の抽選会（乗車日の決定）を行った。

六十四年度の申込数は別表の通りである。今回特に目立つ点は次の通り。

方面別修学旅行申込数

方面	64年度 学校数	64年度 人数	前年度との差 学校数	前年度との差 人数
関東	236	56,306	1	263
信州・北陸	92	27,415	−27	−10,755
中国	103	31,676	14	2,161
九州	252	76,887	−17	−10,927
合計	683	192,284	−29	−19,258

○関東方面、専用臨A3が一九校二、四九六名の大幅増であるが、これは定期列車の定員減（三六〇名から三一〇名に縮小）や、まだ中学生の増加している学校（六十三年度より漸減の傾向）が多いのと、適当な時間帯の列車である理由によるものであろう。

○信州方面、B1（学生集約臨）は、一九校、八、一一四名の大幅減である。これは、復路夜行の疲労、B8列車（ひかり・しなのの乗継ぎ）の定員三〇〇名の問題点によるものと、独自校（オールバス）増とも関連する。

○中国方面の増と九州方面の減とは、平和教育とも関連があるようだ。

各方面の列車利用期間は次の通りである。

○関東方面
A1（定）5・8～5・27
A2（定）5・8～5・20
A3（専）5・8～6・22
A4（定）5・8～5・15
A5（専）5・18～5・23
A6（定・北近畿）5・18～5・20
A7（定・北近畿）5・21～5・24

○信州方面
B1（専）5・15～5・27
B8（新幹線・在来特急）5・8～5・13
〃 5・15～5・20
〃 5・22～5・27
〃 5・29～6・1
〃 6・5～6・9

○北陸方面
B9（専）5・17～6・10
B10（北陸・中央）6・9～6・15
B10（中央・北陸）6・9～6・14

○中国・九州方面
C1・D1（専）5・8～6・17
C2・D2（専）4・17～4・28
〃 〃 5・8～5・31
C3・D3（定）5・21～5・31
C4・D4（定）5・30～6・23
C5（定・北近畿）5・26～6・3
C6（専・新幹線・船）5・25～6・9
D7（専・船・新幹線）5・24～6・8

62年度活動を総括し新年度へ向け協議

関修委

関東地区公立中学校修学旅行委員会（石川敏夫会長・水戸市立第二中学校長）は、昭和六十二年度最終の第六回研究協議会を、二月十七日十三時三十分から、上野公園内東京文化会館で開催し、本年度事業活動を総括するとともに、新年度初頭の行事日程を決めた。

会は先ず、各県修学旅行委員長から本年度事業活動について報告があり、問題点として、輸送計画の変更・取消、諸調査の提出の遅れ、乗継臨時列車の老朽化等が指摘された。

次に関修委事業全般の反省では、輸送計画の各県組み合せの問題、京都発時刻の繰り上げ、修学旅行実施報告書、研究発表会、現地研修会、「近畿の旅」使用等について腹蔵のない意見が交換され、これらの諸点について、来年度一段の充実、合理化をめざすことが確認された。

また、新年度の第一回研究協議会を五月十二日、総会・第二回研究協議会を六月三、四日と決め、更に第五回全国修学旅行研究大会を十一月二十五日水戸市で開催することを確認し、最後に石川会長から、六十二年度の掉尾を飾るに相応しい充実した会議であったとの所感が述べられ、十七時閉会した。

風紋

完成間近い瀬戸大橋の見学会に参加した。瀬戸大橋は岡山県児島と香川県坂出間の延長十三・一キロを五つの島づたいに、三つの吊り橋を含む六つの橋で結ぶもので、道路・鉄道併用橋としては世界最大最長の橋である▼NHK特集「巨大橋を列車が渡る」では、千トンの重量をもつ列車の試験運転の模様を中心に、一メートル近くもたわむ吊り橋をいかに安全に通すかという鉄道土木技術の最先端を紹介した▼耐風・耐震については、これまでの記録である瞬間最大風速五十三メートルを超える六十～七十メートルに耐え、百年に一～二回の発生が予想されるマグニチュード八～八・五程度の大地震に耐える構造だという▼架橋の契機は昭和三十年の紫雲丸事故であった。香川県議会の意見書が国に提出されて三十年余、途中石油ショック等の曲折を経て、いよいよ四月十日に開通することになる▼瀬戸内海は海の銀座といわれる程交通量も多く、春にはあの修学旅行生を呑み込んだ魔の濃霧の発生率も高い▼アメリカでは交通事故防止のため、一九一六年には早くも「セーフティファースト」という標語ができている。我が国もそれをまねて「安全第一協会」がつくられ、あちこちに「安全第一」の看板も掲げられた▼修学旅行の中身の充実が叫ばれる昨今だが、その基本はやはり「安全第一」ではないか。同じ紫雲丸事故を契機に生まれた全修協として、この機会に原点に戻って「安全性」を強調し、その上に新しい課題に立ち向かいたいものである。

信頼される旅づくり

先生たちとの修学旅行「いつまでもわすれません！」

生徒の心にあざやかにつづられる、ツーリストの修学旅行。

先生と、そして友と行った修学旅行。
かけがえのないふれあいが、よき思い出として
ひとりひとりの心に残る、そんな旅にしてあげたいですね。
ワールドワイドなネットワークを通じて、ツーリストがお世話する
修学旅行は、各方面より多大なご好評を得ています。
それぞれの教育方針に添った国内・海外の修学旅行なら、
なんなりと近畿日本ツーリストにご相談ください。

近畿日本ツーリスト
運輸大臣登録一般旅行業第20号
本社 〒101 東京都千代田区神田松永町19-2 ☎(03)255-7111㈹　支店／国内242ヵ所（登録）／海外14ヵ所

生徒指導と特別活動・修学旅行〈49〉

中学校学習指導要領「特別活動」の改訂の方向 (2)

文部省教科調査官　高橋哲夫

（前回にとり上げた項目）
1、特別活動の「目標」
2、特別活動の内容構成
3、特別活動の授業時数
今回
4、「学級活動」の新設

今回の教育課程の基準の改善についての答申のなかで、一番大きな改善点は、小・中学校における「学級活動」の新設である。

(1)答申の主な点は次の通りである。

○学校や生徒の実態に応じて弾力的に指導が行われるようにする観点から、現行の学級会活動及び学級指導を統合して、新たに学級活動を設ける。

○学級活動の主な内容構成は次のとおりとする。

・生徒が学級集団の一員としての自覚のもとに望ましい集団生活や人間関係を築く自主的活動に関する指導
・個人及び社会の一員としての在り方に関する指導
・健康で安全な生活に関する指導
・学業生活の充実に関する指導
・進路の選択に関する指導

○人間としての生き方に関する指導を重視する観点から、個人及び社会の一員としての在り方や進路の選択に関することなどの内容を充実するとともに、その指導時数について明示する。

○指導に当たっては、学校や生徒の実態に即するとともに、現行の学級会活動及び学級指導の特質が生かされるように配慮する。

(2)「統合」の必要性

現行の学習指導要領における生徒活動としての学級会活動、及び学級指導は、昭和三十三年の改訂で設けられた「学級活動」の内容を、昭和四十四年の改訂から二つに分けて実施されているものであるが、昭和五十二年の改訂にもかかわらず、その趣旨が十分に生かされず、たとえば次のような実施上の問題点が存続しているからであると考えられる。

○両者ともに特別活動の内容であり、教師の適切な指導のもとに、望ましい集団活動を通して個性や社会性の伸長、自主的実践的な態度の育成が図られねばならないのに、そのねらいが十分に達成されていない。

○特別活動の一環としての両者の共通点がまず重視されるべきなのに、実際は、両者の差異点が強調されすぎる傾向になり、かたよった指導が行われやすい。

○学級会活動においては、生徒の自治的活動に任せきりとなって教師の適切な指導を欠いた放任におちいりやすく、一方学級指導では教師による教示的説示的な教授活動がもっぱらとなり、形態は集団であっても、実際は、教師対生徒が一対一の寺子屋式教授と変らず、集団活動が行われていない。

(3)改訂の方向

学級活動の内容は、すべて「活動」と示されるであろうし、現行の学級会活動と学級指導のそれぞれの特質を生かすためにも、二つに大別され、前半では学級生活の充実と向上、後半では、現在及び将来にわたって当面する諸課題への対応及び進路の選択にかかわるものなどで構成され、また、後半の指導時数が実数あるいは全体に占める割合などで示されることになると考えられる。

5、クラブ活動の弾力的な実施

全員必修であることには変りがないが、次の点で、すべての生徒がムリやムラがなくクラブ活動を体験できるようになるだろう。

○授業時数については、学級活動とあわせての二単位時間（年間三十五～七十時間）の標準時数及び「それ以外の時間を含めて」、実際はいわゆる学校裁量の時間を活用して、各学校において計画的に適切に設定されることになる。

○必修クラブ活動参加の一形態として、必要やむを得ず、また、特別活動の目標を達成できると考えられる場合には、いわゆる部活動による代替も認められる。

6、学校行事の改善

答申の要点は次のとおりである。

○集団生活への適応、自然との触れあい、奉仕や勤労の精神の涵養などにかかわる体験的な活動を一層重視する観点から、集団宿泊活動、奉仕活動及び勤労生産活動の位置づけや内容の取り扱いを明確にする。

○人間としての生き方の指導の充実にも配慮する。

○入学式や卒業式などの儀式等においては、日本人としての自覚を養い国を愛する心を育てるとともに、すべての国の国旗及び国歌に対し等しく敬意を表する態度を育てる観点から、国旗を掲揚し、国歌を斉唱することを明確にする。

修学旅行については、あらためてその教育的意義が集団宿泊指導としての教育機能や国際化への対応面で果たす役割などの面から見直されていることからも、学校行事における位置づけは十分に検討される必要があると考えられる。

今川市長自ら陣頭に
京都観光一大キャンペーン

既にご承知のように、長期にわたって紛糾を続けてきた京都市の古都保存協力税問題が、一応の決着がついたのを契機として、低落傾向にある観光都市京都のイメージアップを図ろうと、京都観光キャラバン実行委員会主催の観光キャンペーン（懇談会）が二月八日十六時から、東京のホテルニューオータニで開催され、旅行業者、修学旅行関係諸団体など多数が出席した。

会は、京都市長今川正彦氏が、「今までのご迷惑を穴うめする気で、市の関係者あげて一段のサービスに徹する」と述べ、これを受けついで、京都市観光協会会長栗林四郎氏、実行委員長京都市文化観光局長増田駿氏らのあいさつが続いた。

続いて観光キャラバン隊、国体コンパニオンの紹介があり、英語版観光ビデオの上映、京都の伝統芸能「壬生六斎念仏」が披露され、従来京都は公家商売と鷹揚に構えていたのを一変して、今後積極的に観光事業を推進しようと全市関係者一丸となって、盛んな意気込みを示した。

◇

古都保存協力税は三月三十一日限りで廃止、国民体育大会は本年十月十五日から二十日まで京都府で開催される。

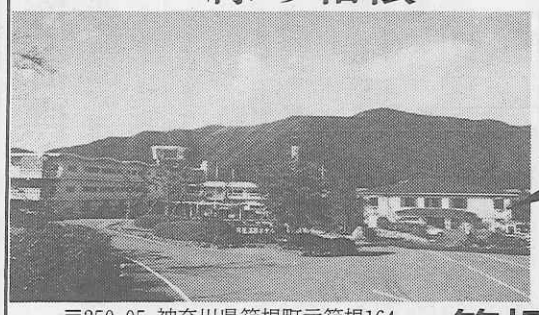
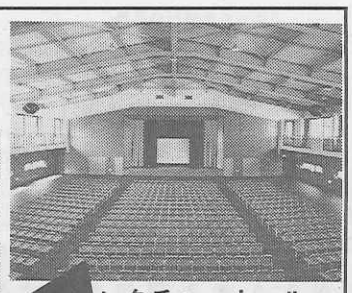
春の全国火災予防運動始まる

今年の春の全国火災予防運動は、二月二十九日から三月十三日まで実施されている。今回は交通機関について重点がおかれ、初日にはJR東日本の東京駅地下、総武・横須賀線ホームで、大がかりな訓練が実施された。

昨年はロンドン地下鉄で大火災があり、東京駅地下ホームをはじめ、上野駅地下新幹線ホーム、東京その他各地の地下鉄などが全面禁煙となっているが、防火対策上やむを得まい。日本航空も一時間以内の便は全面禁煙となる。

火災原因の第二位は「たばこ」だという。修学旅行中の宿舎内でのたばこ対策は、学校も宿舎側も頭を痛めているようだ。健康上はもとより、事故防止の上からも禁煙対策は重要である。

（訂正）前号一面、九州事務所次長森田　茂氏は森田　武氏の誤りでした。

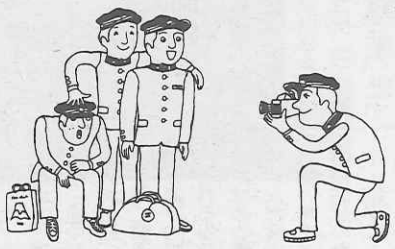
とびだせ自然へ
緑の箱根へ


レクチャーホール
〒250-05 神奈川県箱根町元箱根164
電話0460-4-8595(代表)
箱根高原ホテル

さわやかな奥日光の高原で素晴しい
修学旅行の一夜をお過し下さい。

そのほか
冬期はスキー教室
夏期は林間学校
奥日光高原ホテル
〒321—16
日光市湯元2549—6
（TEL）0288—62—2121代表

美しくに 伊勢志摩
伊勢内宮前 岩戸屋 へ
内宮前でのお食事は階上・階下共1,500名様までお楽にお食事が出来ます。お食事ご休憩にご利用下さい。
おみやげコーナーは伊勢参拝記念の土産を豊富に販売致しております。

伊勢市内宮前
岩戸屋
伊勢内宮前（〒516）
TEL〈0596〉23—3188(代)
テレックス 4969—503 イセイワトヤ

楽しい修学旅行を、
より安心
出来るものに
TOKIO MARINE

「国内旅行傷害保険」
修学旅行用をおすすめします。
東京海上火災保険株式会社
本店　東京都千代田区丸の内1-2-1　☎03-212-6211(代表)

豊かな自然と、科学の調和
見て、触れて、試す体験の旅
本田技研鈴鹿製作所工場見学

地曳網

エンジン教室

潮干狩

体験学習のご案内
●地曳網 ●潮干狩 ●伊勢形紙彫り
●茶摘み ●テーブルマナー
●本田技研鈴鹿製作所工場見学
●エンジン教室
お問い合わせ・お申し込みは
鈴鹿サーキット
〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町7992 ☎(0593)78-1111